

D—15 権威関係による家族の類型  
—その性格要因について—

広島大 伊藤 富美

家族関係の測定について種々の方面から研究がなされているが、特に、夫妻関係を問題にして、その関係における家族類型の決定要因を探ってきた。そのはじめの方法における客観的測定をめざして、夫と妻の activity をとり上げたが、activity 以前の decision において、夫と妻の power-relation が成立し、その関係において類型決定のインデックスになり得るものと考えられた。それゆえ、家庭生活の中で、夫と妻のいずれがどの程度に、decision-making の担い手になるかで家族類型を決定し、その類型決定の要因について本研究では、夫と妻のパーソナリティの組合せから考察する。

Wolfe, D. M の方法をわが国の家庭生活にモジファイした questionnaire で夫と妻から別々に回答を求め、同時に、それぞれの性格の測定を矢田部ギルフォード性格検査を用いて行なった。対象は広島県下の F 市内及び近郊の農村、工場地帯、商業地の 200 世帯の夫妻に無記名で実施した。